昨年に詩舞少年の部優勝を果たした建部有咲さんは、剣舞でも連続優勝

令和六年度全国吟詠コンクール決勝大会
令和六年度全国剣詩舞コンクール決勝大会

原光希さんが父に続き青年三冠を達成

昨年から東西に分かれて開催されることになった全国吟詠および剣詩舞コンクール決勝大会。今年も敬老の日と翌週の秋分の日振替休日に東京と大阪で開催、猛暑が収まらぬなか、熱い戦いが繰り広げられました。青年の部では吟詠と剣詩舞両方のスーパーチームに所属する原光希さんが、吟詠で高松宮記念杯を獲得、翌週の詩舞でも優勝して令和3年の剣舞優勝に続き見事に青年の部三冠を達成しました。

日本財団助成事業

日時：【吟詠】令和6年9月16日（月・祝）
【剣詩舞】令和6年9月23日（月・休）
場所：【吟詠】東京／日本教育会館・一ツ橋ホール
【剣詩舞】大阪／門真市民会館ルミエールホール大ホール
主催：公益財団法人　日本吟剣詩舞振興会

吟詠コンクールで早淵鯉將副会長から高松宮記念杯を授与される原光希さん。翌週の詩舞でも優勝して三冠を成し遂げた

東京・一ツ橋ホールで開催された吟詠コンクールでの幼年・少年の部入賞者

令和六年度全国吟詠コンクール決勝大会

スーパーチームや少壮吟士準候補同士で激戦

吟詠専門委員を中心とした審査委員。〈調和〉は一般審査となり、〈発音〉のみ専門審査で行われた

吟剣詩舞のメッカであった笹川記念会館の解体工事等に伴い、3年前から一ツ橋ホールで開催されている全国吟詠コンクール。今年も地区予選を突破した153人がエントリーしました。うち欠席者は3人だけで、国歌斉唱も会詩合吟もマスクなし、コロナ禍が収まったことが印象づけられました。

地区予選では出場者が少ない幼年から一般一部。そのぶん全国大会では少数精鋭による激戦が展開されます。令和3年幼年の部優勝の阿部尊生さんと幼年で昨年2位の楓生さんとの阿部兄妹は、少年と幼年で2位。二人とも声量があるだけに、マイクに近くて音が割れた印象でした。

青年の部はスーパーチームメンバーや幼年少年で優勝経験がある粒揃いの顔触れ。その中で吟詠、剣詩舞両スーパーチームに所属、オールラウンドに活躍する原光希さんが昨年2位からトップの座へ。各部優勝者中最優秀者に贈られる高松宮記念杯も授与されました。

少壮吟士準候補が6人出場した一般一部。そのうちの1人で、昨年この部に初出場して2位となった井戸隆裕さんが、その悔しさを晴らして優勝を飾りました。

従来の70歳未満から75歳未満と年齢幅が広がった一般二部は、そのぶんレベルが上がった印象。それに対し一般三部は、河野審査委員が評したように例年より個性が薄い雰囲気となりました。

表彰式では一般三部の入選者で届け出なく欠席した方がいたため、順位が繰り上げに。最後は早淵鯉將副会長が「来週は大阪の門真市で全国剣詩舞コンクール決勝大会が開催されます。今日と両方出場される方もいるので、ぜひご覧ください」と閉会の辞を述べ、大会の幕を閉じました。

全国吟詠コンクール決勝大会 結果

一般一部

優勝	井戸隆裕	（大阪）
2位	吉澤純子	（東京）
3位	高木恵美子	（山口）
4位	徳安秀作	（福岡）
5位	阿部香織	（東京）
6位	中澤　宏	（茨城）
7位	田中達也	（香川）
8位	松本亜矢子	（福岡）

一般二部

優勝	井川良得	（茨城）
2位	尾方美千代	（熊本）
3位	岡田洋子	（富山）
4位	前重興亮	（大阪）
5位	遠藤昌成	（東京）
6位	佐野誠樹	（兵庫）
7位	赤塚善夫	（愛知）
8位	西　京子	（福島）
9位	螻川内初代	（大分）

一般三部

優勝	中野澄子	（広島）
2位	大岩孝子	（広島）
3位	西岡悦子	（大阪）
4位	渡辺良夫	（岐阜）
5位	池田弘隆	（香川）
6位	青木昭男	（宮崎）
7位	堀内京子	（静岡）
8位	紀野実知子	（静岡）
9位	圖子美知代	（香川）
10位	竹川いつ子	（香川）

幼年の部

優勝	遠山凛香	（東京）
2位	阿部楓生	（東京）
3位	高橋拓来	（京都）
4位	佐藤　琳	（大分）
5位	マリックソフィア和桜	（熊本）

少年の部

優勝	原田愛子	（大分）
2位	阿部尊生	（東京）
3位	西部和華	（岐阜）
4位	濱中悠太郎	（熊本）
5位	永田菜桜	（愛知）

青年の部

優勝	原　光希	（兵庫）
2位	大野統也	（愛知）
3位	鈴木愛琉	（群馬）
4位	小早川麻衣	（京都）
5位	藤吉瑞季	（大分）
6位	森田晃代	（宮崎）
7位	下北祥子	（兵庫）

審査委員講評

河野正明特別審査委員

「前々回、前回は一般三部に面白い吟をする方がいましたが、今回はコンクール用に勉強されたのか、ほとんどいなくて残念でした。結果を気にせずに『自分の吟を聞かせてやる』というような気概も持っていただければと思います」

幼年・少年・青年の部優勝者の横顔

＊名前が赤字は高松宮妃記念杯受賞

昨年青年の部初出場で2位。この1年は「技術的な部分はもちろんですが詩の内容をより伝えられるような吟詠を意識してきました」

吟詠青年の部 優勝

原　光希さん（兵庫）

吟題「従軍行」

少年の部最後の年に栄冠。「6年前に幼年の部で優勝しましたけど、少年はレベルも上がりラストチャンスだったのでよりうれしいです」

吟詠少年の部 優勝

原田愛子さん（大分）

吟題「九月十日」

昨年まで東日本大会に進めなかったが、全国大会初出場で優勝。「3位以内には入るかなと思ってたけど、まさか優勝とは！」と感激。

吟詠幼年の部 優勝

遠山凛香さん（東京）

吟題「江南の春」

一般一部・二部・三部優勝者の横顔

吟と出会って43年。入賞はあったが優勝は初。「不思議とあがらず詠えましたが、名前を呼ばれて『嘘！』と思わず声が出ました（笑）」

吟詠一般三部 優勝

中野澄子さん（広島）

吟題「佳賓好主」

一部から続く挑戦で入賞はあるものの、今回が嬉しい優勝。「成績は考えず、練習の成果を出せたらいいなという思いで吟じました」

吟詠一般二部 優勝

井川良得さん（茨城）

吟題「時に憩う」

一般一部に初出場した昨年は2位で「とるぞという意識が強くて力が入ってしまいました。今年は程良く抜けて良かったと思います」

吟詠一般一部 優勝

井戸隆裕さん（大阪）

吟題「従軍行」

厳しくも優しい師弟の絆

少年の部優勝の原田愛子さんの師匠は原田光玲子少壮吟士

原田さんの師匠は母である淡窓伝光霊流の原田光玲子さん（右）。祖母の河野光璃子さん（左）が吟詠と詩舞をやっていたことから、光玲子さんも両方習うことに。その影響で次女である愛子さんも、長女の理子さんとともに吟詠をはじめ、将来は「お母さんのような少壮吟士になりたい」と夢を語る。

幼年の部優勝の遠山凛香さんと師匠の佐藤鴻希子先生

小学5年生で昨年までは東日本大会に進めなかったという遠山凛香さん。吟道鴻成流鴻希会の佐藤鴻希子会長（右）に、お母さん、弟とともに師事している。佐藤先生によると遠山さんは「ピアノも習っているので音感が良く、言うとすぐにできる子なので、教えがいがあります」とのこと。

徳田寿風審査委員長

「専門審査だった〈調和〉を、昨年に続き一般審査の採点項目としました。また今年度より一般二部は55歳から75歳未満、一般三部は75歳以上となっております。まず〈発声〉の声質については、高音域を望むあまりぎりぎり届く本数では無理が生じます。またマイクに近くなりすぎないことも大切です。技術については母音が正確に発声されるように注意が必要です。それと吟の上手下手はこぶしの回り具合でわかるとも言われるので練習を重ねてください。〈詩心〉について私が心がけているのは、色彩をイメージすることです。詩によって暗いグレー、淡いピンクなどを思い描くことで気分がその色に染まり、詩にふさわしい声の表情になります。〈態度〉は左右対称が美しさのポイントになります。〈調和〉については伴奏曲を覚えるくらい聞いて練習してください。専門審査の〈発音〉では、鼻濁音にしなくてもよいところが鼻濁音に聞こえる方がおられましたので、注意してほしいとのことでした」

令和六年度全国剣詩舞コンクール決勝大会

12人中6人が同部で剣舞と詩舞両方に優勝

全国吟詠コンクールの1週間後、昨年と同じく門真で全国剣詩舞コンクールが開催。関西吟界のレジェンド、山岡哲山先生の告別式出席の沼崎富会長に変わり、徳田寿風副会長が挨拶文を代読。剣舞幼年の部から演舞が開始されます。

最初に登場した昨年2位の小野愛琉真さんが溌剌とした見事な舞を披露。大会のレベルの高さを伺わせるスタートとなりました。昼食後に剣舞と詩舞の幼年・少年の部の結果発表。昨年剣舞幼年優勝の齊藤柚璃さんが詩舞で、昨年詩舞少年優勝の建部有咲さんが剣舞で優勝するなど、強豪が栄冠を勝ち取る結果になりました。

一般二部・三部でも、昨年詩舞一般二部で2位の入倉仁美さんが優勝するなど常連が活躍しましたが、剣舞一般三部の小澤文子さんは初の全国大会で優勝を果たしました。一般二部では昨年詩舞優勝の奥谷晶子さんが剣舞でも連続優勝。詩舞優勝の伊藤修司さんは平成24年の剣舞優勝以来、12年かけての栄冠となりました。

毎年スーパーチームメンバーを中心にしのぎをけずる青年の部。剣舞では昨年弟（隆生さん）の優勝を客席で見た上岡雅治さんが、3年ぶりの全国大会で優勝。詩舞では令和3年に剣舞で優勝、前週に吟詠で優勝した原光希さんが、平成8年にお父さんの原弦太朗さんが成した青年の部三冠を見事に達成しました。

全国剣詩舞コンクール決勝大会結果

[剣舞]幼年の部

優勝	塙　嘉門	（愛知）
2位	藤原昂大	（岡山）
3位	小野愛琉真	（栃木）

[詩舞]幼年の部

優勝	齊藤柚璃	（兵庫）
2位	片山柚希	（愛知）
3位	畑本彩希	（岡山）

[剣舞]少年の部

優勝	建部有咲	（愛知）
2位	金山咲希	（愛知）
3位	戸田宙希	（滋賀）
4位	田口　穂	（東京）
5位	長谷英朋	（大阪）

[詩舞]少年の部

優勝	堀　真大朗	（愛知）
2位	永田菜桜	（愛知）
3位	片山心結	（岡山）
4位	植原李香	（京都）
5位	四方はな	（京都）

[剣舞]青年の部

優勝	上岡雅治	（三重）
2位	友井川　友	（兵庫）
3位	石川姫麗	（愛知）
4位	杉浦きよ乃	（愛知）
5位	向山諒一	（福岡）

[詩舞]青年の部

優勝	原　光希	（兵庫）
2位	入倉慶志郎	（東京）
3位	柴本佳乃愛	（愛知）
4位	増井章高	（兵庫）
5位	沓川桃子	（愛知）

[剣舞]一般一部

優勝	奥谷晶子	（愛知）
2位	松本全伸	（愛知）
3位	木村佳奈	（兵庫）
4位	大津知紀	（兵庫）
5位	石田泰範	（大分）

[詩舞]一般一部

優勝	伊藤修司	（愛知）
2位	永井聡多	（愛知）
3位	安友理恵	（岡山）
4位	多田麻衣子	（大阪）
5位	小嶋和美	（京都）

[剣舞]一般二部

優勝	西原　香	（兵庫）
2位	小倉典子	（三重）
3位	松川啓子	（愛知）
4位	井上博樹	（兵庫）
5位	藤原さつき	（栃木）

[詩舞]一般二部

優勝	入倉仁美	（愛知）
2位	百田あゆみ	（京都）
3位	小室敦子	（京都）
4位	友井川泰子	（兵庫）
5位	建部　司	（愛知）

[剣舞]一般三部

優勝	小澤文子	（愛知）
2位	谷野光弘	（岡山）
3位	西村美輪	（高知）

[詩舞]一般三部

優勝	蜂須賀記代子	（愛知）
2位	三宅美登里	（兵庫）
3位	山田幸子	（愛媛）

Family 家族で吟剣詩舞！

剣剣舞が得意で、昨年優勝してから本格的に詩舞をはじめたという齊藤柚璃さん。お母さんの有貴さんも剣詩舞をしているが「柚璃は集中力がすごいけど詩舞も優勝するとは。本当に自分の娘なのか？と思いましたが、顔を見たら自分とよく似ているので間違いなく娘でした（笑）」

剣舞幼年の部優勝の塙嘉門さんは三兄弟の次男で、日本壮心流で学ぶ小学4年生。母方の大伯母が渥美昭武舘の斎藤胡心舘長、両親と兄も習っていたため物心ついた時から剣詩舞の道へ。長男の寛介さん（中央）は平成3年に幼年の部優勝。「自分も優勝したい」と練習に励み、昨年3位からうれしい初優勝を遂げた。

審査委員講評

内田寿子特別審査委員

「審査委員の方々から髪型の乱れについて意見が出され、とくに今様の髪型は感心しないというご指摘がありました。詩の内容の表現は皆さんお上手で、曲目と衣装、色彩のバランス、センスが大変重要だなと改めて感じました。技術的にも芸術的にも非常にいい作品がありましたので喜びを感じております」

幼年・少年・青年の部優勝者の横顔

＊名前が赤字は高松宮妃記念杯受賞

令和3年に幼年で優勝した寛介さんの弟。去年は3位で「悔しかった」けど、先生やお母さんに「怒られながら頑張りました」とのこと。

剣舞幼年の部 優勝

塙　嘉門さん（愛知）

演題「鞍馬の牛若」

昨年詩舞で優勝して号泣、「剣舞は刀に全集中するところがむずかしく、不安もあったので2年連続で優勝できてすごくうれしいです」

剣舞少年の部 優勝

建部有咲さん（愛知）

演題「客舎の壁に題す」

3年ぶりに全国大会に出場して念願の優勝。地区大会で敗退した昨年は弟の隆生さんが優勝、「頑張ってるなと思って見てました（笑）」

剣舞青年の部 優勝

上岡雅治さん（三重）

演題「和歌・さえのぼる」

昨年の剣舞に続き連続優勝。「詩舞は中腰でゆっくり動くところとかむずかしく、1年の練習で優勝できて『マジ最高！』です」と感激。

詩舞幼年の部 優勝

齊藤柚璃さん（兵庫）

演題「青葉の笛」

一昨年剣舞で優勝、昨年は詩舞で2位。「悔しさもありましたけど、足りないところがあったのでまた来年頑張ろうと思いました」

詩舞少年の部 優勝

堀　真大朗さん（愛知）

演題「青葉の笛」

令和3年に剣舞で、前週に吟詠で優勝して三冠達成。「びっくりしてますけど詩舞は2年連続で2位だったので肩の荷が下りた感じです」

詩舞青年の部 優勝

原　光希さん（兵庫）

演題「和歌・よもの海」

一般一部・二部・三部優勝者の横顔

＊名前が赤字は高松宮妃記念杯受賞

昨年18年ぶりにコンクール出場して詩舞で優勝。「剣舞は地区大会でも優勝できなくて自信がなかったので、驚いています」

剣舞一般一部 優勝

奥谷晶子さん（愛知）

演題「豊公の旧宅に寄題す」

平成17年の一般一部に続いて、二部では三度目の正直となる全国優勝。「頑張らんでええ」という師のアドバイスを背に本番で輝く。

剣舞一般二部 優勝

西原　香さん（兵庫）

演題「豊公の旧宅に寄題す」

50代で剣詩舞に出会い25年目。詩文の理解を深めて稽古を重ね、初の全国大会で栄冠に輝く。「思いもよらない結果にびっくりです！」

剣舞一般三部 優勝

小澤文子さん（愛知）

演題「涼州詞」

平成24年に剣舞で優勝して以来詩舞に挑戦、「長かったです。どちらかというと剣舞家なので、詩舞で感情を抑えた表現に苦労しました」

詩舞一般一部 優勝

伊藤修司さん（愛知）

演題「和歌・よもの海」

一般二部では二度目の挑戦で全国優勝。一般一部剣舞に続く栄冠。「普段通りの舞を心がけましたが、番号を呼ばれて驚きました」

詩舞一般二部 優勝

入倉仁美さん（愛知）

演題「壇の浦を過ぐ」

10年前の剣舞一般二部に続き、詩舞で二度目の優勝。「踊り切れた感覚があり、入賞せずとも満足だったのですが、望外の喜びです」

詩舞一般三部 優勝

蜂須賀記代子さん（愛知）

演題「厳島」

日本財団助成事業

「第二回全国少壮吟詠家選考審査会」審査会開催

吟界に誘(いざな)った亡き祖父の誕生日につかんだ栄冠

日時：令和7年3月9日(日)　場所：東京都中野区梅若能楽学院会館　主催：(公財)日本吟剣詩舞振興会

通称「少壮コンクール」として令和四年度まで開催されてきた「全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会」。しかし出場者減少などによりレベルダウンが指摘され、令和五年度から選考会、研修会などを経て審査に至る「全国少壮吟詠家選考審査会」に変更されました。

第一回の審査会では2人が3回入選を果たして少壮吟士となり、残りの16人中15人と、新たに準候補となった2人を加えた17人が今回に出場。そのうち6人が入選を果たし、3回入選に王手をかけていた綿谷未由子さんが見事に特別審査にも合格。晴れて少壮吟士候補となりました。

特別審査も合格、3回目入選を果たして少壮吟士準候補となった綿谷未由子さん。令和四年度に最後の「少壮コンクール」に入選、翌年の「第一回全国少壮吟詠家選考審査会」に2回目入選し、見事に3年連続で入選を果たした

徳田寿風審査委員長、沼崎富特別審査委員など10人の審査委員。表彰式終了後、徳田審査委員長は落選した11人に講評を伝えた

令和六年度全国少壮吟詠家選考審査会
審査会実施要項(抜粋)

(ロ)一般審査において、同準候補は課題曲十五題の中から抽選で選択した一題(以下「抽選曲」)と、自ら選ぶ曲一題(以下「選択曲」)の計二題を吟じる。
(ハ)出吟順は、厳正公平な抽選で決定した審査会プログラム順の順番どおりに行い、まず抽選曲を一巡した後、選択曲を同じ順番で一巡する。
(ホ)選択曲については、財団刊行の「吟剣詩舞道漢詩集 絶句編」「同 続絶句編」掲載の中から得意なものを一題選択する。ただし「全国少壮吟詠家選考審査会」一般審査指定吟題十五題からの選択はできない。

第二回全国少壮吟詠家選考審査会にて入選した6人。出吟順で右から德安秀作、梅田めぐみ、井戸隆裕、荒﨑春奈、桶谷麻美、綿谷未由子各少壮吟士準候補。中央奥は日本吟剣詩舞振興会沼崎富会長

「全国少壮吟詠家選考審査会」は、従来のコンクール形式の決選大会とは違い、書類審査から選考会、研修会を経て最後の審査会に至るというもの。3回入選（3回目は律詩による特別審査も実施）を果たしてようやく少壮吟士にたどりつくのは以前と同じですが、選考会や研修会により、少壮吟士としての心構えも身につけるシステムになったと言えるでしょう。ちなみに昨年8月に開催されるはずだった研修会は台風による新幹線の運休で延期。審査会2ヶ月前の今年1月17日に実施されました。

前回は郡司明子さん、平野千草さんが3回入選を果たして少壮吟士候補となり、少壮吟士夏季特別研修会に参加後、11月の倉敷での全国吟剣詩舞道大会にて第45期少壮吟士に認定されました。今回の審査会には前回出場した残り16人中15人と、昨年6月に開催された選考会で新たに少壮吟士準候補となった原奈緒子さん、土方圭秀さんの2人が加わり、計17人が参加しました。

第二回と同じく、今回も梅若能楽学院会館で実施。能楽堂で吟ずる機会は少ないので昨年は皆とまどいましたが、今回のリハーサルでは初挑戦の原さん、土方さんのみが実際に履物を脱いで能舞台に上がり、横から観客に観られるというその独特な雰囲気を確かめました。

審査会の内容は3ページの実施要項どおりですが、前回と違って一般審査指定吟題十五題から選択曲を選ぶことはできなくなりました。まず全員で抽選を行い、開会セレモニーを経て抽選曲の審査。詩文を見ながら吟じてよいことになっていますが、見なかった3人のうち1人は絶句、2人は最終的に落選するという結果になりました。

選択曲は詩文を見るのは禁止ですがみな練習十分の曲なので、抽選曲と比べると余裕が感じられます。全員終えた後で、ようやく観客からそれまで禁じられていた拍手が送られます。この後審査員会議を経て結果発表。徳田寿風副会長から入選した6人が発表され、そのうち3回目挑戦の綿谷未由子さんは特別審査に進むため、課題曲（律詩）五題から抽選。真山民の『山中の月』を引き当てました。

小休止の後に特別審査。綿谷さんは五言八句の詩をゆったりと詠います。その後審査員会議を経て徳田副会長が「綿谷未由子さん、特別審査合格です」と発表。入選者6人が舞台上に上って表彰式を行いました。落選した11人には徳田寿風副会長が個別に講評を行い、次回の捲土重来を促しました。

1回入選

淡窓伝光霊流日本詩道会
梅田めぐみ（大分）

開会セレモニーにて挨拶する沼崎富会長。能舞台の正面席には審査委員のみ着席し、一般の観客は脇正面と中正面から視聴。入場無料だが審査会中は拍手等禁止

一般観客入場後、開会セレモニー前に公開で一般審査吟題の抽選。事前に厳正な抽選により決められた出吟順に、詩文が入った封筒を選んだ

2回入選

関西吟詩文化協会緑扇会
德安秀作（福岡）

詩道楠水吟詠会
井戸隆裕（大阪）

紫虹流吟剣詩舞会
荒﨑春奈（神奈川）

日本詩吟学院 富山桜吟会
桶谷麻美（富山）

3回入選

吟道関心流
綿谷未由子（三重）
特別審査『山中の月』（真山民）

少壮吟士候補者　よろこびの声

「特別審査で苦手な吟を引いてしまい、ちょっと後半危ない箇所もあったのですが、とにかく丁寧にやろうと心がけました。家族をはじめ、会の方など多くの方に応援していただいたおかげです。抽選曲は得意不得意ということはなかったのですが、選択曲も李白なので何か縁があるなと。選択曲は昨年と同じにしようかとも思いましたが、令和四年度の全国吟詠コンクールで優勝した時の『蘇台覧古』にしました。『山中の月』は自分では選ばない曲なので少しあせりました（笑）。だいたい五言詩が苦手で、1月の研修会でも五言絶句の『満述』を選んで指導していただきました。YouTubeで笹川鎮江先生の吟を聞いて、ああいうイメージで詠えたらと練習してきました。私は3歳頃から祖父母に詩吟を習ったのですが、今日は亡き祖父の誕生日なんです。それで何かついてくれていたのかなとも思いますが、早く仏壇に手を合わせて報告したいです」

「第二回全国少壮吟詠家選考審査会」審査会出吟順（太字の名前は入選者）

	名前	入選回数	所属総連盟	流派	抽選曲	選択曲
1	甫守美和子	2	福岡	日本吟声流	富嶽	汪倫に贈る
2	**德安 秀作**	**1**	**福岡**	**関西吟詩文化協会緑扇会**	**梅花**	**後夜仏法僧鳥を聞く**
3	太田 武志	1	千葉	日本修道流吟詠会	烏江亭に題す	両英雄
4	**梅田 めぐみ**		**大分**	**淡窓伝光霊流日本詩道会**	**蜀中九日**	**汪倫に贈る**
5	**井戸 隆裕**	**1**	**大阪**	**詩道楠水吟詠会**	**折楊柳**	**涼州詞（王翰）**
6	辻　寛子	1	神奈川	岳精流日本吟院	山房春事	山行同志に示す
7	中西 光恵	1	兵庫	紫洲流日本明吟会	己亥の歳	月夜三叉口に舟を泛ぶ
8	**荒﨑 春奈**	**1**	**神奈川**	**紫虹流吟剣詩舞会**	**舟八島を過ぐ**	**佳賓好主**
9	林田 麻由	1	大分	淡窓伝光霊流日本詩道会	応制天の橋立	元二の安西に使いするを送る
10	吉澤 純子	1	東京	契秀流吟詠会	石鎚山	除夜の作
11	**桶谷 麻美**	**1**	**富山**	**日本詩吟学院 富山桜吟会**	**山房春事**	**夜墨水を下る**
12	土方 圭秀		東京	昊陽流吟詠会総本部	応制天の橋立	凱旋
13	七五三聖子		兵庫	吟道摂楠流総本部	花朝澱江を下る	後夜仏法僧鳥を聞く
14	**綿谷未由子**	**2**	**三重**	**吟道関心流**	**黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る**	**蘇台覧古**
15	原 奈緒子		三重	奉観流詩吟道	漫述	九段の桜
16	荒﨑有紀江	1	神奈川	紫虹流吟剣詩舞会	母を奉じて嵐山に遊ぶ	平泉懐古
17	吉田あゆみ	1	大分	淡窓伝光霊流日本詩道会	河内路上	豊公の旧宅に寄題す